

具体項目

数学

| 観点 | 発行者 | 東京書籍 | 大日本図書 | 学校図書 | 教育出版 |
|--|--|--|--|---|---|
| <p>1 踏まえ、豊かな人間性の育成を図る上での特長</p> <p>教育基本法の理念や第二期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を</p> | <p>(1) 教科書及び特設教育内容が、質的に目指す目標として、「育成的達成」の達成の目</p> | <p>・本文中の「数学のまど」や巻末の「社会とつながる」では、社会や職業における数学の活用を取り上げ、数学を学ぶ意義や有用性を実感し、幅広い知識や教養を身に付けるとともに、職業観が培われるよう配慮されている。</p> | <p>・数学と社会のつながりを知るためのコラム「社会にリンク」(各巻4名)、巻末には数学の歴史・数学者・書籍・科学技術への応用などを紹介する「Mathful(マスフル)」を設定し、国際的に通用する幅広い知識と教養を身に付けられるよう配慮されている。</p> | <p>・鍾乳洞、メガソーラー発電所など、環境問題を直接的・間接的に扱うことで、自然を大切にすることを養うとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮されている。</p> | <p>・巻頭に「昔の数の表し方」「国旗の中の図形」「和算と算額」を紹介するとともに、索引に外国語訳を付加するなど、我が国の文化を理解し、国際社会の発展に寄与する人材育成が図られるよう配慮されている。</p> |
| | <p>(2) 郷土「長崎」の伝統・文化や歴史を生かせる自然</p> | <p>・1年6章「空間図形」において、「江迎千灯籠まつり(佐世保市)」の写真が掲載されている。</p> | <p>・1年7章「資料の整理と活用」において、「都道府県別中学校数」に関する資料に長崎県の中学校数が取り上げられている。</p> | <p>・1年7章「資料の活用」において、「調整平均」に関して本県出身でオリンピックに出場した体操選手の演技の写真が掲載されている。</p> | <p>・1年1章「正の数、負の数」において、「各地の最高気温」に関する資料に長崎が取り上げられている。</p> |

具体項目

数学

| 観点 | 発行者 | 啓林館 | 数研出版 | 日本文教出版 |
|--|--|---|--|--|
| <p>1 踏まえ、豊かな人間性の育成を図る上での特長</p> <p>教育基本法の理念や第二期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を</p> | <p>(1) 教科書及び教育内容が、質的に目指す目標・「育」の達成・目</p> | <p>・別冊「MathNaviブック」には、巻頭に「数学を活用している人たち」、また全章に対応した「学びをいかそう」を設定し、数学の有用性を感じながら、生徒自身が自ら学び、自らの能力を高められるよう配慮されている。</p> | <p>・実際の資料を活用し、地球温暖化問題や少子高齢化問題を取り上げることで、国や社会の問題を自分自身の問題としてとらえ、数学的に処理できるよう配慮されている。</p> | <p>・江戸時代に発達した日本独特の数学である「和算」、日本の伝統工芸・伝統的な模様などの話題を各学年で取り上げ、数学を通して我が国の歴史・文化を理解し、主体的に社会とかがわりとうとする心が育成できるよう配慮されている。</p> |
| | <p>(2) 郷土「長崎」の伝統・文化や歴史を深める・学習に生かせる自然</p> | <p>・2年別冊「MathNaviブック」において、「第95回全国高校野球選手権記念大会」の対戦結果の中に佐世保市内の私立高校名が掲載されている。</p> | <p>・1年7章「資料の整理とその活用」において、「さくらの開花日と平均開花日の差」「都道府県別面積の順位」に関する資料に長崎が取り上げられている。</p> <p>・2年2章「連立方程式」において、「動植物園の入園料」に関する例題で、佐世保市内の動植物園の写真が掲載されている。なお、この例題は実際の料金が答えになっている。</p> | <p>・1年7章「資料の活用」において、大阪市の最高気温が扱われており、その後、「資料の傾向をとらえ説明しよう」との課題があり、長崎県のデータを用いて学習することが可能である。</p> |

具体項目

| 観点 | 発行者 | 東京書籍 | 大日本図書 | 学校図書 | 教育出版 |
|---|---|---|---|---|--|
| <p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長</p> | <p>(1) 基礎的な知識・技能が確実に習得されるか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「例題」、「たしかめ」、「問」と配置し、理解の確認と基礎の定着が図られるよう構成されている。また、「問」の横には「もっと練習」を設定し、数多く反復練習ができるようになっている。 節末には「基本の問題」を設定し、問題の横には、教科書の参照箇所が明記されている。「章末問題」はA、Bの2段階構成で、Aは、基礎・基本を定着させるよう設定されている。また、巻末には「補充の問題」が単元ごとに準備しており、豊富で多様な問題に取り組めるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 各項目ごとに活動の順番が数値で表示され、学習の流れが分かりやすい構成である。また、各単元の途中で学習を振り返る「練習」が準備され、基礎・基本の定着を図ることが容易な構成になっている。 「Q」の横には「プラス・ワン」を準備し、多くの問題に触れる機会が設定されている。また、「章末問題」に問題数を多く設定したり、巻末に「まとめの問題」を準備したりして、豊富な問題数で知識・技能の定着を図ることができるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 例題の解答例がノートに書くことを意識して示されており、生徒のノートづくりの手助けとなるよう配慮されている。また、各節に「確かめよう」、各学年の領域「数と式」の全単元に「計算力を高めよう」を設定し、問題数を充実させることで、基礎・基本の定着を図る構成になっている。 「章のまとめの問題」には「基本」と明示し、基本的な問題への取組を意識させるよう構成されている。また、巻末にはその学年と前学年までの復習問題が設定されており、知識・技能の定着を確実にするよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 本文中の重要な説明には立体的な縁取りを施し、わかりやすくしてある。また、各章の最初には「学習する前に」、本文の横に適宜「もどって確認」、章末には「学習のまとめ」を設定し、基礎・基本の定着が図ることができるよう工夫されている。 「たしかめ」を設定し、基礎的な内容の理解度を確認するとともに、「たしかめの補充問題」を準備することで、学習速度に応じて学習ができるよう構成されている。また、各学年、各領域末に「練習問題」を設定し、知識・技能が定着するよう工夫されている。 |
| | <p>(2) 等しい知識が、必要なスキルを生活に活用し、課題を解決する力があるか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 各章の「利用」の節では、その章で学習した内容を活用して、身の回りの生活における課題を解決するよう設定されている。また、キャラクターの吹き出しによる助言等を付記し、思考の手助けになるよう工夫されている。 適宜「学び合い」のページが設定され、言語活動を通して思考力が高められるよう工夫されている。また、「章の問題B」には活用の問題、巻末には実生活の問題や他教科との関連する問題を配置し、知識・技能を活用する力を伸ばすことができるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「利用しよう」「見いだそう」「伝えよう」の活動を適宜配置し、新たな規則や性質を見つける活動や気づきや分かったことを説明する活動を通して、思考力、判断力、表現力等々の育成が図られるよう工夫されている。 「章の問題」には、考えを説明したり、表現したりする問題を適宜配置し、思考力、判断力、表現力等々の育成が図られるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「見つける」、「活用する」、「伝える」を適宜配置し、考えを説明したり、話し合ったりすることを通して、思考力、判断力、表現力等々の育成が図られるよう工夫されている。 「協同学習のページ」では、レポートの作成や発表の仕方について示し、さらに、テーマとなる題材を掲載し、これまで学習してきた数学を活用して思考力、判断力、表現力等々の育成が図られるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「問」に、適宜「伝えよう」、「話し合おう」を配置し、考えを伝え合うことで、数学的な表現力等を養ったり、考えを広げたり深めたりできるよう工夫されている。 巻末には「数学の広場」「ジャンプ」、巻末には「自由研究」、「実力アップ問題」を配置し、知識・技能の活用を通して、思考力、判断力、表現力等々の育成が図られるよう工夫されている。 |
| | <p>(3) 主体的に学習する習慣が身に付くよう工夫されているか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「社会とつながる」では、実社会や職業における数学の活用をコラムとして紹介し、数学を学ぶことの意義や有用性を実感させ、興味・関心を高められるよう工夫されている。 「学習の進め方」や「数学マイノート」では、分かりやすい例示や解説によって、教科書の使い方や授業中のノートのとり方のポイントを示し、学び方や学習習慣が身に付くよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「社会にリンク」では、その単元で学んだことの意義や実生活とのつながりをコラムとして紹介することで、日常生活との関連を図り、数学を学ぶことのよさを実感させ、興味・関心を高められるよう工夫されている。 節末の「練習」にはA、Bの2段階の問題を配置し、「章の問題」には知識の定着からその活用まで段階的に問題を提示している。さらに、補充問題として「プラス・ワン」を配置している。生徒が自学自習や反復練習、習熟度に応じた学習に進んで取り組めるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 章の初めには、生徒の興味をひく身近な題材を問題解決的な学習に仕組み、その単元の内容が見通しをもって取り組めるよう工夫されている。また、学習内容のつながりや流れを大切に構成になるよう配慮されている。 節末の「確かめよう」、「計算力を高めよう」では基礎的な知識・技能を自主的な学習で身に付けることができるよう配慮されている。さらに、巻末の「まとめの問題」では、「基本」、「応用」、「活用」の問題を用意し、習熟度に応じて取り組めるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「章のとびら」では、ゲームや自然事象など、生徒が親しみやすく、興味・関心を抱くような題材を扱うことで、章の学習内容の必要性を実感させ、主体的な学習の動機付けになるよう工夫されている。 章の始めの「～を学習する前に」では既習事項の確認問題を、章末の「学習のまとめ」では基本事項の復習問題を用意し、生徒が主体的に学習を進められるよう配慮されている。 |

| 観点 | 発行者 | 啓林館 | 数研出版 | 日本文教出版 |
|---|--|--|--|---|
| <p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長</p> | <p>(1) 基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 別冊「MathNaviブック」において、既習事項の確認ができる問題が設定されている。また、「問」の後に適宜「ふりかえり」を準備し、既習事項の確認ができるように工夫されている。さらに、例に見だしをつけることで、振り返りの確認が容易にできるよう工夫されている。また、解答例はノートに書くことを意識した表示となっている。 各章末に「基本のたしかめ」を設置し、評価規準を表示することで、既習事項の自己評価ができるよう工夫されている。また、巻末には「くり返し練習」「まとめの問題」を設置し、知識・技能の定着が図られるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 巻頭に「クイックチャージ」「ドリルでチャージ」を設定し、既習事項の確認ができるよう工夫されている。また、本文中にも「ふりかえり」や「例題の反復」があり、知識・技能の習得を確実にするよう工夫されている。 各章末には「確かめよう」を設定し、基礎的な問題の数を充実させることで、知識・技能の習得が図られるよう工夫されている。また「章の問題」はA、Bの2段階構成で、生徒の学習状況に応じた扱いができるよう配慮されている。さらに、巻末の「チャレンジ編」では、各章の振り返りができるよう設定されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 各章の始めに「学ぶ前に」や、本文中に「ふりかえり」を設定し、既習事項の確認ができるよう工夫されている。 節末に「基本の問題」、章末に「くり返し練習」、「たしかめ」、「とりくんでみよう」と多くの問題を配置し、知識・技能の習得が確実にできるよう工夫されている。また、「チャレンジ」を設置し、学習状況に応じた配慮がなされている。 |
| | <p>(2) 知識・技能を必要とされる活用・判断・表現・解決に活用できる力があるか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 本文横に、適宜「見方・考え方」を配置し、思考を広げるための支援となるよう配慮されている。また、各章末の「千思万考」では、身近な問題や課題等を設定し、思考力の育成が図られるよう工夫されている。 巻末の「数学広場」、別冊「MathNaviブック」の「学びをいかそう」には、知識・技能の活用を促す問題を配置し、数学的な見方や考え方の育成が図られるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「やってみよう」、「章の問題」のB問題には、知識・技能を活用して解決を図る問題を配置し、数学的な見方や考え方の育成が図られるよう工夫されている。 「問」には、適宜「見つけよう」、「活用しよう」、「伝え合おう」を設定し、数や図形の性質を見いだしたり、考えを伝え合ったりすることで、思考力、判断力、表現力等々の育成が図られるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 本文横に、適宜「考えよう」が配置され、思考を促すための支援となるよう配慮されている。また、章末の「とりくんでみよう」には「説明できるかな」として言語活動を設定し、数学的な表現力が高められるよう工夫されている。 章末には、「深める数学」、「生活への利用」を配置し、課題解決学習を設定することで、数学的な見方や考え方の育成が図られるよう工夫されている。 |
| | <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度を養えるか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 別冊「MathNaviブック」では、各章の導入や発展の場面で活用できる題材を準備し、習熟度や少人数などの学習形態に対応できるとともに、生徒が主体的に取り組めるよう工夫されている。 巻末の「力をつけよう」では、反復練習や補充学習など基礎を定着させる問題を用意し、生徒が授業や家庭学習で自主的に取り組めるよう工夫されている。また、「数学広場」では生徒の興味・関心に応じた活用問題を用意し、探究的な態度を身に付けることができるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 側注に登場する3色のキャラクターに、それぞれ課題の提起、助言、確認の役割をもたせ、生徒が進んで考え、学習に取り組みやすくなるよう工夫されている。 巻頭の「クイックチャージ」、「ドリルでチャージ」で既習事項の確認と演習を、巻末の「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」で補充、発展的な学習が行え、個々に応じて、意欲をもって取り組めるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「数学のたんけん」「数学研究室」では、防災・数学史・生活・情報など興味深い話を取り上げ、探究的に学習を進められるよう工夫されている。 章末には、「くり返し練習」、「たしかめ」、「とりくんでみよう」の3種類の問題を用意し、基礎・基本の復習や観点別に習得状況を把握したり、活用・説明の問題に取り組んだりするなど、個々に応じて、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 |

具体項目

| 観点 | 発行者 | 東京書籍 | 大日本図書 | 学校図書 | 教育出版 |
|--|--|--|--|---|---|
| <p>2 で の 特 長</p> <p>学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上</p> | <p>(4) か 工とさし数 夫がをさ学 さで実や的 れき感数活 てます学動 いよるのの るうこよ楽</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・章の扉や「活用の問題」、「巻末課題編」では、日常に潜む数学を見いだす問題場面を設定し、数学のよさを知り、数学を日常生活に活用する力を育成できるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「見いだそう」、「利用しよう」、「伝えよう」という活動を設定し、数学的な表現を用いて説明し伝え合うことなどを通して、数学を学ぶことの面白さを実感できるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・章の導入では、話し合い活動や観察・操作・実験活動等を多く取り入れ、数学を学ぶ意欲を高められるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各章の始めの「Let's Try」では、章の学習につながる活動を設定することで、章の学習に意欲的に取り組むことができるよう工夫されている。 |
| | <p>(5) にう一度 設に度 定す学 さる習 されな した てなど 内容 を直し るかび を再 し度 の学 習機 会が き適 切よ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「もっと練習」や「補充の問題」では、問題演習の機会を増やすことで、理解が深まるよう工夫されている。また、折り込み資料を使うことで、小学校から中学校3年間の学びをつないで学習できるよう工夫されている。 ・「まちがい例」や「まちがいなおし」では、同様の間違いを繰り返さないように注意を喚起することで、学力の定着が図られるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「プラス・ワン」では問題演習の機会を増やし、理解を深化させたり、習熟度に応じて取り組んだりすることができるよう工夫されている。 ・「練習」や「まとめの問題」など豊富で多様な問題を設け、繰り返し練習する機会を充実させることで、学習した内容の定着を図ったり、理解を深めたりすることができるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「確かめよう」、「計算力を高めよう」、「～年の復習」では、問題演習の機会を増やすことで理解を図ることができるよう工夫されている。 ・目次に、領域ごとに関連する小学校や前学年までの既習事項を示したり、各領域の学習に入る前に「ふりかえり」を示したりすることで、学習のつながりや系統性が分かりやすくなり、復習に取り組みやすいよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「～を学習する前に」や「学習のまとめ」では、学習した内容を確認できるよう工夫されている。 ・「基本のたしかめ」、「練習問題」及び「たしかめの補充問題」では、多数の問題に繰り返し取り組むことで、基礎・基本の定着が図られるよう工夫されている。 |
| | <p>(6) 工るだす各 夫学しる領 さ習たな域 れを課どの て行題し内 いをて容 えををを る解を る決見 か。うすい</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「数学のまど」や「巻末課題編」では、発展的な課題や、身近な場面や他教科の学習と数学を関連付けた題材を扱うことで、思考力、判断力、表現力等等を高めることができるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「もっと数学」や「挑戦しよう」では、発展的な課題に取り組むことで、問題解決能力を一層伸ばすことができるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「クローズアップ」や「課題学習・自由研究」では、発展的な課題や社会的な課題と数学を関連付けた課題に取り組むことで、数学的な見方や考え方をさらに深めていくことができるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「数学の広場」や「ジャンプ」では、発展的な課題に取り組むことで、学習内容の理解を深めたり広げたりできるよう工夫されている。 |

具体項目

数学

| 観点 | 発行者 | 啓林館 | 数研出版 | 日本文教出版 |
|--|---|---|--|---|
| <p>2 で の 特 長</p> <p>学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上</p> | <p>(4) か 工とさし数 夫がをさ学 さで実や的 れき感数活 てるす学動 いよのの るうこよ楽</p> | <p>・「みんなで話しあってみよう」や「自分のことばで伝えよう」では、説明したり、伝え合ったりする活動を設定し、コミュニケーションを通して学ぶ楽しさや考える楽しさを実感できるよう配慮されている。</p> | <p>・「やってみよう」では、数学が活用されている日常の場面を題材として扱い、数学のよさを実感できるよう工夫されている。</p> | <p>・章末の「生活への利用」では、学んだことを使って身の回りの問題を解決する課題を設定し、数学を活用して考えたり、判断したりすることができるよう配慮されている。</p> |
| | <p>(5) にう 一設に度 定す学 さる習 されな たし て内容 いるか を直し 度学 の習 会 が 適 切 よ</p> | <p>・別冊「MathNaviブック」の「学びをつなげよう」では、本冊で学習した内容の振り返りができ、理解を深める配慮がなされている。</p> <p>・「くり返し練習」では、豊富な問題を用意することで、主体的な学習活動を促し、理解を深めることができるよう工夫されている。</p> | <p>・巻頭の「クイックチャージ」「ドリルでチャージ」では、前学年までに学習した基本事項を各学年10ページ程度にまとめて取り上げることで、既習事項を確認したり、振り返ったりすることができるよう工夫されている。</p> <p>・節末に配置された「確かめよう」や、巻末に配置されたチャレンジ編の「確認しよう」では、豊富な問題を用意することで、基本的な知識・技能の定着が図られるよう工夫されている。</p> | <p>・各単元の扉の前に「～を学ぶ前に」を設置し、学び直しの機会を設けることで、関連する既習内容の理解を確認することができるよう配慮されている。</p> <p>・章末の「くり返し練習」や「とりくんでみよう」では、豊富で多様な問題に取り組むことで、基礎・基本の定着を図ったり、理解を深めたりできるよう工夫されている。</p> |
| | <p>(6) 工るだす各 夫学しる領 さ習たな域 れを課どの て行題し内容 ていをてを えを解を る決見 か。うす うすい合</p> | <p>・「千思万考」や「数学広場」では、身の回りの事柄に関する課題や発展的な課題に取り組むことで、問題解決能力を伸ばすことができるよう工夫されている。</p> | <p>・「数学探検」や「深めよう」では、発展的な課題や内容を総合した課題に取り組むことで、問題解決能力を一層伸ばすことができるよう工夫されている。</p> | <p>・「数学のたんけん」や「数学研究室」では、福祉、防災等の身の回りの事柄や他教科等の学習内容と関連する課題に取り組むことで、数学の有用性を深く実感できるよう工夫されている。</p> |

具体項目

| 観点 | 発行者 | 東京書籍 | 大日本図書 | 学校図書 | 教育出版 |
|---|---|--|---|--|--|
| <p>3 長</p> <p>学習効果や使いやすさ、見やすさ等、ユニバーサルデザインの視点からの表記・表現や体裁の特</p> | <p>(1) と文章は、豊かな記述内容となっており、分量</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学習課題や目当てが青の強調文字で示され、目的意識をもって学習に取り組めるよう配慮されている。また、解説文や問題文の字体や大きさ、改行を工夫し、読み取りやすくなるよう配慮されている。 右横の余白を効果的に利用し、既習事項の確認や補充問題、吹き出し等による要点の明示などを掲載することにより、学習活動の充実が図られるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 解説文を簡略化することで、学習課題や目当てが明確に示され、目的意識をもって学習に取り組めるよう配慮されている。 例題において、調べたり、考えたりする学習活動を取り入れ、数学的活動の充実が図られるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 各項目の始めに、学習の目標を明記し、生徒が目的意識をもって学習に取り組めるよう配慮されている。また、吹き出しによる助言や確認など、学習内容の定着が図られるよう配慮されている。 言葉の意味を理解させる箇所には、挿絵を用いて目をひくような工夫がなされ、確かな理解が図られるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 文字のサイズを大きくしたり、フォントの使い分けをしたりして、読みやすく学習しやすい紙面づくりに配慮している。 定義や定理、数学用語など重要事項を分かりやすく強調し、また、必要に応じて図などを取り入れ、視覚的にも理解を促すよう工夫してある。 |
| | <p>(2) 効果と十分に配慮されているか、学習内容との関連や学習意欲を高める</p> | <ul style="list-style-type: none"> 全学年において、巻頭には身の回りの数学に関する写真が掲載され、図形の学習に対する関心を喚起している。また、巻末には数学者を紹介し、数学の発展の歴史にも触れている。 4ページに渡り、学習の進め方を見やすく丁寧に説明し、学習意欲を喚起している。また、問題には効果的にカラフルなロゴを入れることで、学習意欲が高まるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 全学年において、巻頭には身の回りの数学に関する写真とそれにかかわる図表を掲載し、2・3年生では、巻末に図形のまとめがやわらかい色調で見やすく掲載されている。 図や表を多く使い、学習内容を視覚的にとらえ、イメージしやすくなるよう配慮されている。また、関数領域では座標平面を多く配置し、グラフを直接記入できる機会を増やしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 全学年において、巻頭・巻末には、建造物や伝統工芸品等の写真を掲載し、図形の学習に対する関心が高まるよう工夫されている。併せて、数学者の紹介を掲載し、数学の歴史に対する興味も高まるよう工夫されている。 各単元の扉に使用されている写真や図表は、身近な例を取り上げ、思考しやすくなるよう配慮されている。また、1年生図形領域では、作図の様子を表した写真を挿入し、より習得度が向上するよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 全学年において、巻頭にはその学年の学習内容に関連する写真を掲載し、巻末には既習内容のまとめがカラフルな文字や図によって見開きの形で付加され、学習意欲が高まるよう配慮されている。 巻頭には、カラフルな文字、図、絵等を用いて教科書の使い方を説明し、学習意欲を喚起している。また、目次や本文中に写真や図を効果的に配置し、学習の支援となるよう工夫されている。 |
| | <p>(3) は挿絵の適切な活用や紙質、色紙質、製本等について</p> | <ul style="list-style-type: none"> 背景色は白色を基調とし、挿絵と写真が適度に配置されている。また、1・3年生は、巻末には、既習内容を硬めの紙質に図や色を効果的に用いてまとめてあり、興味・関心を高められるよう配慮されている。 文字の大きさを1年生だけやや大きめにし、小学校の教科書とのギャップが少なくなるよう配慮がされている。また、各章だけでなく各節も大きな字で表題が示され、導入的な内容が挿入されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 背景色の基調を乳白色とすることによって、挿絵や写真とのコントラストがはっきりしており、文字も鮮明で見やすくなるよう配慮されている。 文字の大きさが1年生と2・3年生で異なり、小学校や高校の教科書とのギャップが少なくなるよう配慮されている。また、説明文では行間が広くとられ、読みやすくなるよう工夫されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 背景色は白色を基調とし、挿絵はシンプルな描写で分かりやすい。また、挿絵や図表、実物写真を随所に用いることにより、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 単元名の文字を大きくし、本文の文字間を広くすることで、見やすくなるよう配慮されている。各章の区切りやまとまりが分かるように色付けしたタグを施している。 | <ul style="list-style-type: none"> 背景色は白を基調とし、図表や文字飾りに多色を用いることで、学習のポイントが目立つよう配慮されている。 文字の大きさを大きくし、問題に使用される文字や数字は肉厚な文字にして、見やすくなるよう配慮されている。 |

具体項目

数学

| 観点 | 発行者 | 啓林館 | 数研出版 | 日本文教出版 |
|--|-------------------------------------|--|--|--|
| <p>3 長 学習効果や使いやすさ、見やすさ等、ユニバーサルデザインの視点からの表記・表現や体裁の特</p> | <p>(1) いるも章かには、豊かな記述内容となつて量</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも敬体で記述し、説明は分かりやすく丁寧である。また、節の導入では「～してみましょう」のような柔らかい表現が用いられている。 ・本文中の重要事項、語句の部分には、色付けした枠囲みをして強調して示されている。また、図解を取り入れ、板書風に分かりやすくまとめている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に応じて、めりはりをつけ、明瞭で簡潔な解説をしている。重要語句は黒太ゴシック体で強調して示されている。 ・各項目の始まりが、ページの最初に掲載されるようにすることで、学習のまとめりや流れを意識して、取り組みやすくなるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題や説明の文章は簡潔にまとめられている。また、活動の場面では「～しましょう」、問や章末の問題など演習では「～しなさい」と使い分けられており、学習場面に応じて表現が工夫されている。 ・本文中の重要事項の部分には、背面に色をつけ、強調して示されている。 |
| | <p>(2) 効果と十分に配慮されているか</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、巻頭には身の回りの数学に関する写真や資料等が、巻末には各学年の学習のまとめが掲載されている。また、別冊「MathNaviブック」には、写真や図表をふんだんに使い、学習意欲を喚起するよう工夫されている。 ・各章の扉には、カラフルなキャラクターが用いられており、学習意欲を喚起するよう工夫されている。また、思考過程を図に表した例もあり、内容の理解度を上げることができるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、巻頭には、使用されている各種ロゴの説明が示されている。また、本文中の三種のキャラクターの学習援助における役割が明記され、学習意欲を喚起するよう工夫されている。 ・ノートのつくり方を写真や図で示したり、各項の見だしの下に学習の目当てを付記したりすることにより、学習内容の定着を図る配慮がされている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、巻頭には、建造物や伝統工芸品等の写真を掲載し、図形の学習に対する関心を高められるよう工夫されている。巻末には、2年生で図形学習のまとめが、また、3年生はそれに加え数学の歴史年表が付加されている。 ・各章の扉には、親近感のあるキャラクターを用い、学習意欲を喚起するよう工夫されている。また、多くのグラフや図等を配置し、視覚面から学習内容の理解度が向上するよう工夫されている。 |
| | <p>(3) は、適切な配慮されているか</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・背景色は乳白色を基調とし、明るく柔らかい色調の挿絵等を用いるなど、見やすくなるよう配慮されている。 ・挿絵等を最小限にとどめているため、ページの右側には余白があり、書き込みスペースとして活用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・背景色は乳白色を基調とし、コントラストが鮮明な挿絵を配置することによって見やすくなるよう配慮されている。 ・文字の大きさを調節することで、ページのカット割が適切である。また、「基本問題」や「章の問題」では、問題間に余白が設けてあり、取り組みやすくなるよう配慮されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・背景色は白を基調とし、イラストやキャラクターなどは多色でめりはりのある色遣いをするので、よく目立つよう配慮されている。 ・例題や計算問題の文字や数字が大きく見やすくなっている。また、重要語句の黒太字がしっかりと目立ち、重要度が理解されやすくなっている。各章の区切りやまとめりが分かるように色付けしたタグを施している。 |